

『施設・設備』

10 施設・設備

(10-1) 学内の学習環境

基準 10-1-1

薬学教育モデル・コアカリキュラム及び薬学準備教育ガイドラインを円滑かつ効果的に
行うための施設・設備が整備されていること。

【観点 10-1-1-1】 効果的教育を行う観点から、教室の規模と数が適正であること。

【観点 10-1-1-2】 参加型学習のための少人数教育ができる教室が十分確保されている
こと。

【観点 10-1-1-3】 演習・実習を行うための施設(実験実習室、情報処理演習室、動物
実験施設、RI 教育研究施設、薬用植物園など)の規模と設備が適
切であること。

[現状]

平成 21 年度で薬学部が主に使用している校舎における講義室等の整備状況は
下表に示すとおりである。

種 別	室面積 (㎡)	収容人員 (人)	室 数	形 態 等	設 備 等	備 考 (室名等)
講 義 室	369.25	266	1	階段・イス固定	マルチメディア	P-1
	286.30	211	3	階段・イス固定	マルチメディア	C1,C2,C3
	308.52	100～	1	フラット・イス可動	マルチメディア	C4 (C5 と連結し 1 室として使用可)
	311.55	100～	1	フラット・イス可動	マルチメディア	C5 (C4 と連結し 1 室として使用可)
	187.11	186	1	スロープ・イス固定	マルチメディア	P-2
演 習 室	56.64	40	3	フラット・イス可動		C11, C21, C24
	56.64	40	6	フラット・イス可動		C12, C13, C22, C23, C25, C26 隣接する 2 室を連結し 1 室として使用 可
	167.98	80	1	フラット・イス固定	マルチメディア	CALL 教室 (情報処理演習室)
実 習 室	329.75	90	2		AV	214, 217
	330.12	90	2		AV	312, 315
	270.00	40	1			318
	424.64	—	1			薬学臨床実習室

また、薬学部が関係する学内附属施設の状況は以下に示すとおりである。

①薬用植物園

*規模 面積：約 3,900m² (温室：341.5m²、1 階建)

*標本数：北方系植物 約 250 種、北方系薬木 約 10 種
南方系植物 約 220 種(温室)

②北方系伝統薬物研究センター

*規模 総床面積：約 550m²、2階建

*施設：資料展示室、隔離研究室、隔離温室、植物培養室、
遺伝子保存庫 ほか

③動物実験センター

*規模 総床面積：約 1,867m²、地下1階・地上4階建

*施設：一般実験室、細胞工学室、遺伝子導入実験・飼育室
感染実験・飼育室 ほか

*設備・機器：安全キャビネット 5、超低温フリーザー(−80℃) 1
クリーンベンチ 2、BBH動物飼育ユニット 3
倒立顕微鏡 2、高圧蒸気滅菌器 4 ほか

④アイソトープ研究センター

*規模 総床面積：約 1,232m²、地下1階・地上4階建

*施設：RI貯蔵室、動物実験室、生化学実験室、合成実験室
試料測定室、暗室、廃棄保管室 ほか

*設備・機器：半導体電子ポケット線量計 15、ビクトロン線量計 1、
シンチレーションサーベイメーター 4、エリアモニター 6、
電離箱型サーベイメーター 2、GMサーベイメーター 7、
ガスモニター 1、水モニター 1、フロアモニター 1、
トリチウムモニター 1、ハンドフットクロスモニター 1、
液体シンチレーションカウンター 1、マイクロ天秤 1、
オートウェルガンマーカウンター 2、分離用超遠心機 1、
高速冷却遠心機 1、微量拘束冷却遠心機 1、
高速液体クロマトグラフ 1、凍結乾燥機 1、
CO₂インキュベータ 1、超低温槽(−80℃) 1 ほか

⑤ハイテクリサーチラボ(大型機器室)

*規模 総床面積：約 241m²

*施設：質量分析装置室、単結晶構造解析装置室、分光光度計室、
核磁気共鳴装置室、フーリエ変換核磁気共鳴装置室、
超遠心分離機室 ほか

*設備・機器：ガスクロマトグラフ質量分析計、偏光ゼーマン原子吸光光度計、分
離用超遠心機、核磁気共鳴装置、単結晶構造分析装置、全自動
細胞解析分取装置 ほか

[点検・評価]

大・中規模の講義室と演習室、実習室がバランスよく配置され、講義室及び演習室の一部は連結・分離が可能で用途に応じてフレキシブルに対応できるなど、現状では講義室等の使用に問題はなく、また、各種機器類を備えた附属施設も薬学教育に

十分に対応しており、いずれも適切に整備されている。

しかし、今後、学年が進行により、実務実習事前学習や卒業研究など少人数によるグループワーク形式の授業が多くなる傾向にあり、時間帯によっては、少人数の演習形式の授業に対応できる教室（フラット・イス可動）を必要数確保することが困難となる状況も想定され、その対応として時間割の編成に制約が生じるなど影響を及ぼす可能性も否定できない。

[改善計画]

今後の、学年進行による講義室の需要の動向を検証し、特に少人数教育に対応する演習室等の整備について検討する。

基準 10-1-2

実務実習事前学習を円滑かつ効果的に行うための施設・設備が適切に整備されていること。

[現状]

薬学教育 6 年制への移行にともない、新たなに建築した講義棟(中央講義棟)には、講義室 5 室や 40 名収容の演習室 9 室などを整備したほか、薬学臨床実習室(424.6m²) 1 室を整備した。

薬学臨床実習室は、調剤室、無菌製剤室、注射管理室、模擬病室、模擬薬局、カンファレンスルームなどの諸室からなり、共用試験(OSCE)や実務実習の事前学習に対応している。

また、演習室を利用してコミュニケーション実習など少人数によるグループワークなどを実施している。

[点検・評価]

- ・薬学実務実習の事前学習で特に必要となる調剤や製剤の基本的実務に関する技能を学習する施設・設備として、薬学臨床実習室が整備されており、適切に対応している。
- ・少人数のグループワークを行う演習室については、平成 21 年度においては授業運営に支障はなく、特に問題はない。
- ・今後、学年が進行して後述する卒業研究などの少人数による教育が増加することにより、適正規模の演習室の需要が増大することが想定され、授業時間帯によっては、教室の確保に困難を来すことも予想される。

[改善計画]

実務実習事前教育の実施形態等と今後の学年進行による講義室の需要の動向を検証し、特に少人数教育に対応する演習室等の整備について検討する。

基準 10-1-3

卒業研究を円滑かつ効果的に行うための施設・設備が適切に整備されていること。

[現状]

卒業研究(科目名:「総合薬学研究」)は、これまでの旧4年制課程と同様にそれぞれが所属する講座(研究室)の研究室(ゼミナール室)を中心に実施することを基本とする予定である。

それぞれの講座(研究室)には大研究室(67.5m²)1室、中研究室(45.0m²)1~2室、小研究室またはゼミナール室(33.8m²)1室が整備されている。

卒業研究に向けた学生の講座(研究室)配属は第4学年後期に行われ、第5学年から各所属講座(研究室)において卒業研究スタートする。平成21年度には卒業研究は実施されていないが、今後、学年が進行した場合には、2つの学年の学生が同時期に卒業研究を行うことになり、グループワークなどについては講義棟の演習室など研究室以外の場所で行うことも想定される。

[点検・評価]

現状の説明において述べたとおり、学年進行により、複数学年が同時期に卒業研究を実施した場合に、講義棟の演習室を使用することになるが、後述する実務実習前の事前学習を中心に少人数のグループワークを主にした演習形式による授業が増加し、演習室の需要が高まってきている。このため、時期により演習室の数が不足することが懸念される。

[改善計画]

今後の卒業研究の実施形態等の状況と演習室等の需要の動向を検証し、各研究室に付設のゼミナール室及び講義棟の演習室等の整備について検討する。

基準 10-1-4

快適な学習環境を提供できる規模の図書室や自習室を用意し、教育と研究に必要な図書および学習資料の質と数が整備されていること。

【観点 10-1-4-1】 図書室は収容定員数に対して適切な規模であること。

【観点 10-1-4-2】 常に最新の図書および学習資料を維持するよう努めていること。

【観点 10-1-4-3】 快適な自習が行われるため施設(情報処理端末を備えた自習室など)が適切に整備され、自習時間を考慮した運営が行われていることが望ましい。

[現状]

図書の整備状況は以下のとおりである。

図 書	開架図書	学術雑誌		視聴覚資 料	電子ジャーナ ル	図書受け入れ状況		
		外国書				平成18年度	平成19年度	平成20年度
221,504	184,862	2,386	1,231	5,347	3,500	5,909	6,547	6,324

図書館の開館時間は、平日(月～金曜日) 9:00～21:00、休日(土・日曜日) 10:00～18:00 であり、主な設置機器などについては、以下のとおりである。

- ・ 閲覧席数：375 席 (あいの里分館を除く)
- ・ 主な設置機器(あいの里分館を除く)

蔵書検索端末 5 文献情報検索用 PC 27 貸出用ノート PC 30
VIDEO・DVD・CD ブース 7

オンラインデータベースとして MEDLINE、SciFinder、JDream II、医学中央雑誌などが利用可能である。また、独立した自習室は整備されていないが、CALL 教室(PC 80 台設置)が月～金曜日の 15:30～19:00 に開放されているほか、学生ロビーにノートパソコンの接続が可能な情報コンセントが、計 99 ヲ所設置(あいの里キャンパスを除く)されており、学生の自学自習に活用されている。

[点検・評価]

- ・ 図書館については、図書等の学習資料については、各年度で計画的に購入されているほか、オンラインデータベースなど適切に整備されている。開館時間は、夜間・休日にも開館されるなど、学生の学習時間に配慮された適切な管理運営が図られている。
- ・ 学生の自習のための設備等については、PC 設置の教室の開放や情報コンセントの設置などで一定の対応が図られているが、学年進行により学生数が増加することから、自習スペースの充実が今後の検討課題である。

[改善計画]

今後の学年進行による学生の動向等をふまえ、キャンパス全体のあり方について検証するなかで、自習スペースの充実についても検討する。